

地域の魅力を考える

—仕事と暮らしを支える社会政策とは—

東日本大震災と福島第一原発事故から5年が過ぎた。道路、港湾や建物が再建されても、被災者の暮らしや仕事がもとに戻ったわけではない。人々の暮らしを欠いたままでは「地域づくり」は進まない。政府の「地方創生」戦略や地方創生交付金は、地域の抱える問題を解決することにつながるのだろうか。多くの自治体では、まち・ひと・しごと総合戦略のもとでどのような魅力ある地域をつくらうとしているのか。福島に視座を置いて、その像を探りたい。

2016

5/14

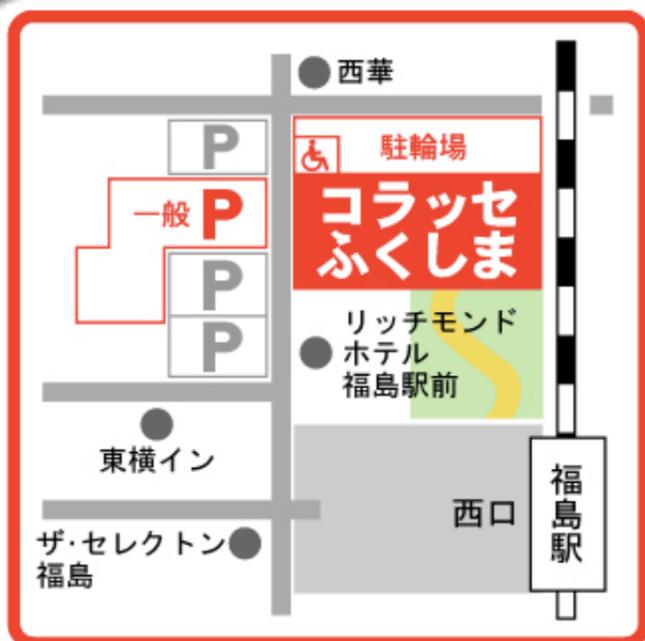
土

14:00~18:00

入場無料
事前申込不要

会場

コラッセふくしま5階 研修室
JR福島駅西口より徒歩3分



●座長：

野口 定久（日本福祉大学）

●報告者：

1 井手 英策（慶應義塾大学）

「人口縮減時代の地方財政

～オリンピック後の日本社会を念頭に～」

2 丹波 史紀（福島大学）

「原子力災害における地域再生と社会政策の課題」

3 福原 宏幸（大阪市立大学）

「生活支援、社会的居場所、就労支援による多様な
まちづくり—大阪・箕面市での取り組みから—」

4 朝倉 美江（金城学院大学）

「求められる『一億総活躍』と地域福祉の課題」

問い合わせ

大分大学経済学部阿部誠研究室

電話: 097-554-7682

Email: mabe@oita-u.ac.jp